

## 愛を得るための観想

### 230 注意

まず二つの事に注意するのが望ましい。第一、愛は言葉よりも行いによって示すべきである。

231 第二、愛は両者の間の交換にある。すなわち、愛する人が持つものを、又は持つものと自分に可能なものから愛される人に分け与え、一方、愛される人も、愛する人に対して同じくするところに愛がある。従って、どちらかが知識を持つならば、持たない相手に分け与え、名誉や富に関しても同様にし、相手も他方に対して同じくする。

### 232 第一の準備

場所を設定する事。ここでは、我が主なる神と天使達と、私のためにとりなしている諸聖人の前に自分がいるのを見る事である。

### 233 第二の準備

望んでいるものを願う事。ここでは、神の恵みを余すところなく認め、全てにおいて主なる神を愛し、仕える事ができるために、いただいたこれほどの恵みの内的知識を願う事である。

### 234 要点第一

創造と贖いと個人的な賜物等、受けた恵みを思い起こし、我が主なる神が私のためにかに尽くされたか、自分が持つておられるものからどれほど多くを与えられたか、又同じ主が、神の計画に従って可能な限り、どれほど自分を私に与えようと望んでおられるかを深い感動をもって思いめぐらす。ついで、自分に目を向け、当然なすべき正しい事として、私からは主なる神に何を捧げ、何を与えるべきかを考察する。つまり、私の全てのもの、それと共に私自身を捧げるべきと思い、深い感動のまま奉献する者として次のように申し上げる。

「主よ、私の自由をあなたにささげます。私の記憶、知恵、意志をみな受けいれてください。私のものはすべて、あなたからのものです。今、すべてをあなたにささげ、み旨に委ねます。私に、あなたの愛と恵みを与えてください。私はそれだけで満たされます。それ以上何も望みません。」

### 235 要点第二

神がいかに被造物の内に住んでおられるかを見る。つまり、物質の元素には存在を与えながら、植物には生長を、動物には感覚を、人間には思考力を与えながら住んでおられる。従って、私を存在させ、生きさせ、感じさせ、考えさせながら、この私の内にも神が住んでおられる。同様に、主なる神の姿に似せて造られた私を自分の神殿として、私の内に住

んでおられる。第一要点に述べた方法、又はより良いと思われる他の方法で同じ事について自分に目を向ける。後に続く各要点についても同様にする。

### **236 要点第三**

あらゆる被造物において神がいかに私のために活動し、働いておられるかを考察する。つまり労働する者のように見える。例えば、存在させ、保持し、生長させ、感じさせる等して、天と物質の元素や植物、果実、家畜等において働いておられる。次いで、自分に目を向ける。

### **237 要点第四**

全ての良いものと賜物がいかに天上から下るかを見る。例えば、私の限られた能力が天の限りない最高の能力から下り、正義と善良さ、思いやりと憐れみ等も同様である。あたかも太陽から光線が、泉から水が流れ出るとくである。次いで、前述の通り(235)、自分に目を向けて終わる。

### **対話**

対話と主祷文一回で終わる。